

4. まちなか歴史コース

4.3 km

所要時間 54分

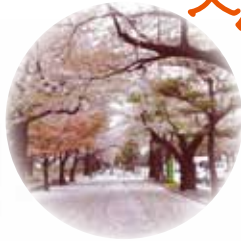
●男性◎約6000歩 ●女性◎約7400歩

まちなか歴史コースのルート

[スタート&ゴール] 太素塚



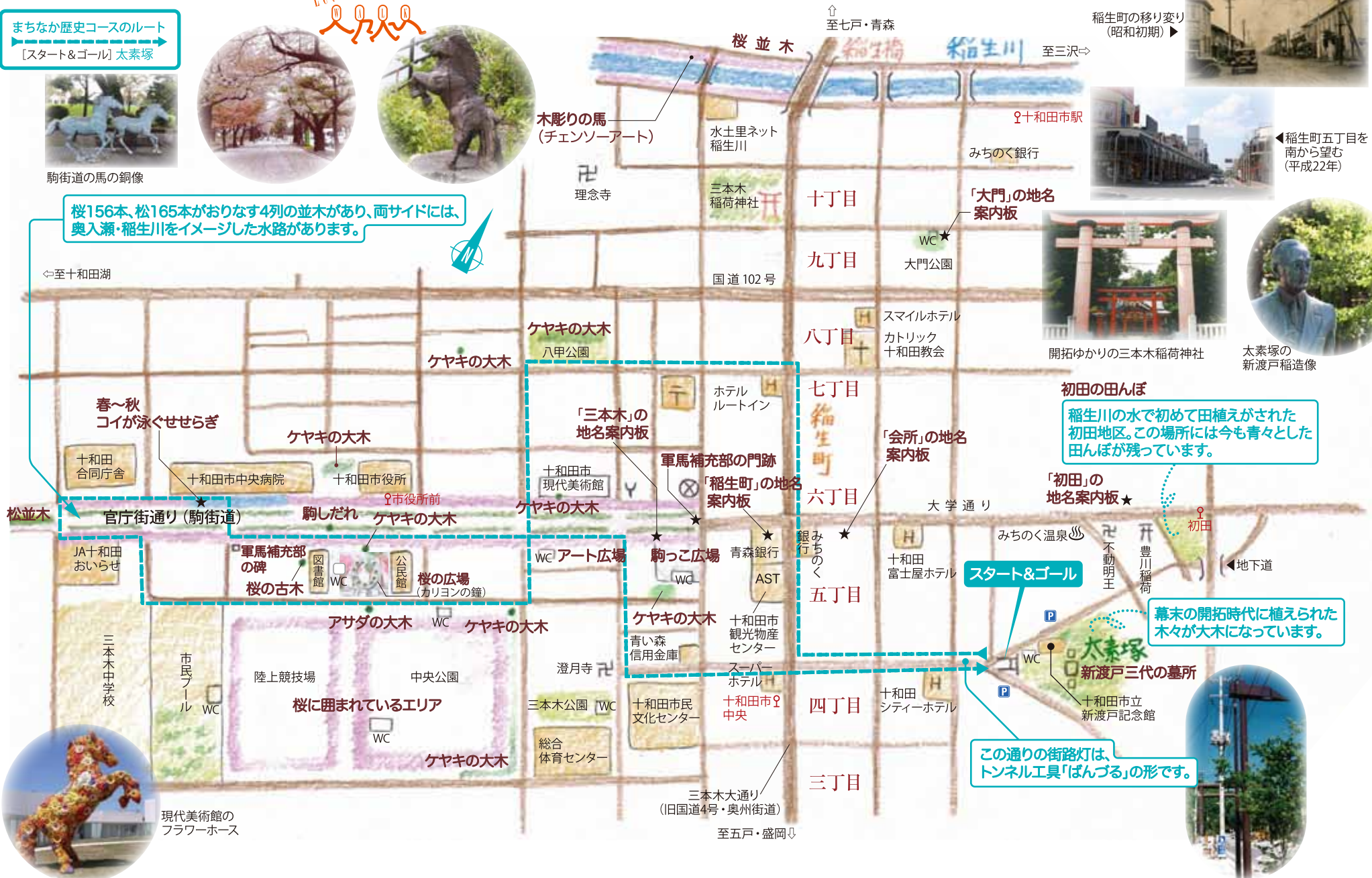
駒街道の馬の銅像



桜156本、松165本がおりなす4列の並木があり、両サイドには、奥入瀬・稲生川をイメージした水路があります。

⇔至十和田湖

十和田市の中心街は、幕末の人工河川の掘削に続く近代都市計画によりつくられ、現在も碁盤の目状の道が交差する美しい街並みをのこしています。ヤマセや八甲田おろしの冷たい風を防ぐ防風林は江戸時代後期から植えられ、その名残の大木が今も町なかのあちこちに見られます。かつての軍馬補充部の並木道を活用して整備された官庁街通り(通称駒街道)は、「日本の道百選」にも選定されており、4月末頃の桜の開花時には桜のピンクと松の緑が見事に調和した絶景が見られます。地元の人はもちろん、訪れる人々の目を楽しませてくれるお勧めの美観スポットです。



稲生町の移り変わり (昭和初期)



◀稲生町五丁目を南から望む (平成22年)



開拓ゆかりの三本木稲荷神社



太素塚の新渡戸稲造像

初田の田んぼ
稲生川の水で初めて田植えがされた初田地区。この場所には今も青々とした田んぼが残っています。

「初田」の地名案内板★

幕末の開拓時代に植えられた木々が大きくなっています。

この通りの街路灯は、トンネル工具「ばんづる」の形です。



現代美術館のフラワーホース